

# 令和元年度第3回愛媛県地域交通活性化推進会議 議事要旨

令和2年2月21日（金）13:30～15:10  
愛媛県議会議事堂4階 農林水産・建設委員会室

## 1 開会

○松村会長

新型コロナウイルスの関係で地域間移動の減少が長引くと、公共交通の維持・活性化に悪影響があるため、かなりの危機感をもって注視しているところ。しかしながら、こうした様々な社会的影響はあると思うが、私たちにできることはしっかりと企画を作り、実施していくことに尽きると思うので、本日の主な議題である愛媛県地域公共交通活性化指針の改正について審議いただき、より良い企画にしたい。その後には、県内の公共交通の状況について報告があるので、皆様方には積極的な議論をお願いしたい。

## 2 議事

### (1) 愛媛県地域公共交通活性化指針の改正について

事務局から愛媛県地域公共交通活性化指針の改正案について説明後、質疑応答を行い、改正案については了承され、今後修正がある場合は会長に一任することとなった。

#### (質疑応答)

○近藤委員

(指針の施策テーマ5に災害に強い愛媛の公共交通とあるが)本州とつながる橋が不通となった場合の四国における物資輸送のシミュレーションはどうか。

○事務局(県交通対策課)

交通対策課が所管でないため、詳細は説明できないが、国等と連携して取り組んでいる。

○松村会長

各企業においても、平成30年7月豪雨の経験も生かし、BCP(業務継続計画)などのマニュアルを作られていると思う。

○松村会長

法律にあるように、地域公共交通における県や市町の役割が重要視されている。活性化指針を定めることによって、各市町の地域公共交通網形成計画等がグレードアップしていくことにつながるのではと期待しているところ。

○大城委員(代理:垣内 八幡浜市政策推進課長)

公共交通網が縮小傾向にある中、まずは既存の交通網を大切にしながら、それでも不足する部分は行政として対応していきたい。

○松村会長

今ある公共交通を守っていかなければならない。それについては、まだまだできることがあると思う。

○秋山委員

パブリック・コメントが行われていた西条市の地域公共交通網形成計画（素案）で鉄道やバス、あるいはバス同士が競合している部分について、調整等を行っていくようされているが、全県的に必要なのか。

○事務局

まずは市町において、地域の方々の意見を聴きながら、公共交通網の維持・活性化ができるように進めていってもらいたい。

○松村会長

どうしても昔のままの路線の場合が多く、今の住民のライフスタイルは随分変わってきているので、その意味では場合によっては路線の改変等が必要だと思う。2社が競合している場合は、それをうまく時間間隔などが合うように細かな調整をすることで、乗りやすさが劇的に変わることがあるので、そのきっかけとして行政の計画を使っただけならと思う。

## （2）報告事項

### ①地域間幹線系統確保維持計画の変更等について

事務局から説明し、質疑応答を行った。

#### （質疑応答）

○甲斐委員

瀬戸内運輸（株）に係る計画変更の理由に「運転手の確保が難しいため」とあるが、運転手の確保対策は全体の問題で今後更に深刻化すると思う。それに対して、事業者間で運転手の融通などの協力体制をつくるなど、県も支援して取り組んでいく必要があるのではないかと。

○事務局

県内のバス会社は運転手不足の状況にあって、事業者間で運転手の融通をするというのは難しいと考える。こうした中、県では、平成 28 年度から公共運転人材確保対策事業を進め、今年度からは公共運転人材確保緊急対策事業として実施しており、運輸関係も含めて人材確保に努めてまいりたい。

○松村会長

地方で就職したいと考える学生も増えてきたと実感しており、地域公共交通事業者は正に地方の事業者なので、そういう意味では潜在的なニーズはあるのではないかと。また、今の学生は給料が多く欲しいというよりも、自分らしい生活ができたらよいと考える者がいるので、私としても学生たちに公共交通事業者に就職希望がでるような情報提供をしていきたいと思う。融通という意味では、熊本市のバス会社のように共同経営を目指すようなことも考えられるが、県内では東予、中予、南予でバス会社が異なっており難しいと思う。

### ②令和元年度生活路線バス・離島航路等の事業評価について

事務局から説明し、質疑応答を行った。

(質疑応答)

○松村会長

昨日、四国運輸局におけるこの事業評価の会議に出席したが、事業評価の資料について、第三者から見ても分かるような記述にしていくとより良いと思う。

③南予地域の公共交通再編の状況について

事務局から説明を行った。委員から特に意見はなかった。

④公共交通人材確保緊急対策事業の実施状況について

事務局から説明し、質疑応答を行った。

(質疑応答)

○甲斐委員

タクシーについても人材不足に悩んでいると聞いているが、今後、県の後押しはあるか。

○事務局

来年度の本事業において、タクシー事業者についても加えるよう考えている。

○近藤委員

より小さい子どもたちに向けた取り組みは何かあるか。

○稲荷委員（代理：竹中 愛媛県バス協会理事）

毎年、学校を回ってバスの乗り方教室を行っている。乗り方を覚えてもらうことはもとより、バスを見てもらってバスがカッコいいと思ってもらえるように取り組んでいる。

○事務局

四国運輸局が事務局である四国公共交通利用促進協議会に本県も参画しており、毎年9月頃に事業者の御協力をいただきながら、バス、タクシーに親しんでもらうイベントを開催している。

⑤松山空港将来ビジョン検討会について

事務局から説明し、質疑応答を行った。

(質疑応答)

○甲斐委員

どのような想定で松山空港の将来目標を立てているのか。

○事務局

国内線については、1路線増、3便増となることを想定しており、基本的には現状の路線で機材が大型化していくという前提で見込んでいる。国際線については、新規路線として2路線、便数は週24便とし、今より17便増加させたいと思っており、路線数・便数ともに増加するという形で試算した。

○日野委員

松山空港はもう少し乗り口を増やしてほしい。評判も良い空港だと思うので、拡充をしてほしいと思う。

○事務局

松山空港は市街地から近いというメリットがある反面、それ故に敷地は余裕がない。そのような中、県では、国土交通省に国際線スポットの増設を強く要望しているところ。国の御理解をいただき、できる限り早期の機能拡充に努めたいと考えている。

## ⑥地域公共交通に関する令和2年度県当初予算について

事務局から2月議会に提案する令和2年度県当初予算案を説明し、質疑応答を行った。

### (質疑応答)

○中尾委員

公共交通人材確保緊急対策事業について、仲間に入れてもらいたいというわけではないが、鉄道についても人材不足に陥っている。

○事務局

御意見を踏まえて、公共交通人材確保緊急対策事業の執行段階で検討いたしたい。

○佐藤委員

船員の成り手も少ないので、現地説明会を年に1回とは言わず、2回、3回としてはどうか。

○事務局

予算内で有効に実施するように考えたい。なお、今年度から東予、中予、南予それぞれで実施し、計3回開催している。

○松村会長

今年度と比べて、新たな取り組みなどはどうか。

○事務局

運輸事業現地説明会において、タクシー事業者に加わっていただくことを検討している。先ほどの中尾委員からの御意見については、執行段階で考えさせていただく。また、人材獲得・採用に係る実践研修会において、今年度は松山市のみで開催したが、東予地域からの出席者が多かったので、来年度は松山市と西条市でそれぞれ開催して、より多くの方々に参加いただきたいと考えている。

○松村会長

その他の予算で新たな取り組みはどうか。

○事務局

JR今治駅のバリアフリー化対策事業に対する助成や、地域公共交通網形成計画等推進事業の中で新モビリティサービス、具体的にはM a a S等の検討を関係者と進めることとしている。

○松村会長

ぜひお願いしたい。M a a Sと聞くと、スマートフォンのアプリケーションという感じになるが、そうでなくてもよいと思う。例えば、地域の方々から1万円をいただいたら、その

1万円分のパスでタクシーや鉄道なんでも乗れますというものも立派なM a a Sの考え方である。ローテクであっても、地域公共交通の利用を促進していく方法もあると思う。

○甲斐委員

地域公共交通を利用して自宅から目的地に行くという体験してもらいなど、利用者の行動の変化を促すような社会実験を将来的に考えてみたらどうか。

○事務局

御指摘の新しい公共交通のあり方ということについては、まずは地域公共交通網形成計画等推進事業の中で、市町や交通事業者の方々と一緒に検討を進めてまいりたい。

○松村委員

高校と連携して、公共交通のマップを作成し、受験生に配るなど、教育委員会と連携して何かできないかと考えている。人々の行動が変わるような施策を打っていかないといけないと思う。

○横手委員

トレッキングなど、そうした企画を行っている団体等にイベントでの公共交通機関の活用を提案してみてもどうか。

○松村会長

ぜひそういう連携は進めてもらいたい。

○佐藤委員

公共交通人材確保緊急対策事業費について、参加人数が30名を下回っていることは残念である。本件に関する周知はどのように行っているのか。

○事務局

委託事業者による広報のほか、教育委員会を通じて各学校にチラシの配布などを行った。

○佐藤委員

このような公共交通の魅力発信を行うイベントは県の取り組みとして非常に良いと考えており、引き続き積極的に実施していただきたい。

○事務局

来年度も関係機関と連携をとりながら、多くの方に参加してもらえるよう取り組みたい。

○甲斐委員

スポーツイベントなど大きな催しの際に、公共交通の利用を促すことはできないか。

○窪委員

少しPR不足の部分はあるかもしれないが、JR四国では、愛媛マラソンにおいて沿道で応援される方々向けの臨時列車を走らせ、多くの方に利用いただいている。また、サイクリングイベントでは、それにあわせてサイクルトレインを運転させている。サイクリングしまなみの際には、5両編成のサイクルトレインを運転している。3月20日からは、春のサイクルトレイン、松山駅から今治駅、西条駅から波止浜駅を運転するので、御利用よろしく願います。更に、坊っちゃんスタジアムや県武道館においてイベントがある時には、臨時列車を運転している。

○佐藤委員

「(2) 報告事項」の「①地域間幹線系統確保維持計画の変更等について」で質問すべきであったが、中島汽船の航路ダイヤ等の変更に伴って、島内等のバスダイヤの変更はどうか。

○事務局

今回（令和2年7月1日予定）の航路ダイヤ変更に係るバスダイヤの変更は把握していない。

○松村会長

住民の方々の移動に係る話であるので、確認し、各委員にお知らせいただきたい。

## ○その他

新型コロナウイルスの感染予防対策について、国作成のチラシを委員に配布し、説明。

### ◆欠席者等

欠席：（一社）愛媛県ハイヤー・タクシー協会専務理事 田所委員

愛媛県旅客船協会会長 清水委員

愛媛県社会福祉協議会常務理事 杉野委員

内子町長（県町村会会長） 稲本委員

代理：（一社）愛媛県バス協会専務理事 稲荷委員代理 竹中理事

新居浜市長（県市長会会長）石川委員代理 平岡事務局長

八幡浜市長 大城委員代理 垣内政策推進課長